

Mie-Vet 通信 Vol. 3

2019年3月発行
三重県獣医師会 事務局

三重県獣医師会会員のみなさまへ

「Mie-Vet 通信3」を発信させていただきます。

目次

- ① 日本獣医師会獣医学術学会年次大会（神奈川県新横浜）
- ② 近畿地区連合獣医師会総会
- ③ その他

内容

①日本獣医師会獣医学術学会年次大会（神奈川県新横浜）

平成31年2月8日（金）～10日（日）に新横浜プリンスホテルで開催されました「日本獣医師会獣医学術学会年次大会」に事務局として参加しましたので、シンポジウム等で興味があった内容について簡単に紹介します。

なお、近畿地区からの参加者は少ないようですので、来年度以降、皆様のご参加をお願いします。

ア「SFTSから獣医師、動物医療関係者、飼い主を守れ！」

上記のテーマで、山口大学前田先生を始め、宮崎大学、鹿児島大学、山口大学の獣医学科の先生及び宮崎県立病院の医師から、ヒト患者の症例等について、発表があった。これまでは、ダニ→野生動物（ヒト）という感染経路であったが、ペット→ヒトというダニを介さない感染経路ができ、特に小動物開業の先生に注意していただきたいということです。結論は、獣医療関係者がSFTSに感染しないよう、関係者の意識を高めようという事です。

○ マダニは、幼ダニ→若ダニ→成ダニになる過程で3回吸血する。若ダニの状態越冬するらしい。

○ SFTSで野生生物は死亡例の報告はないが、鹿、イノシシはウイルス血症になる。ジビエ関係者の発症は不明。猟師の発症は有るらしいが、マダニの吸血によるものか、野生動物からの二次感染なのかは不明である。

○ 犬は抗体価の上昇は有るが無症状が多い。猫は感受性が高く、急性に経過し死亡率も高い。（死亡率60～70%）死亡例は発症後3日以内が多く、IGGが上昇し、5日から7日経過すると快方するとのこと。ウイルスは、血漿、眼結膜、肛門周囲、口腔から検出できる。2w経過するとウイルス検出しなくなる。

- SFTSはBリンパ球にダメージを与え免疫系を破たんさせる。CRP上昇がないのが特徴だが、SAAが上昇すると報告があった。
 - ヒトへの感染例は、2013年から昨年10月で約400例の報告がある。そのうち、動物病院での院内感染例もあり、動物病院での感染を防ぐ対策が必須である。
- ウイルス自体はエンベロープがあり、あらゆる消毒剤に弱いものである。ゴーグルの着用が有用であるとのこと。獣医療関係者の意識向上が肝要である（学術的に未熟の為、学術的な勘違いや間違いはお許しください。）

イ100件の獣医療クレームの分析と対策

講師：弁護士法人フラクタル法律事務所 田村勇人

講師は東京都獣医師会の顧問弁護士をして見える方で、肩の凝らないランチョンセミナーでした。セミナーの中で特に「手技ミス、誤診は避けられないが、説明不足は避けられる。」というお話でした。クレームの原因の大部分は患者さんへの説明不足の感がしました。

事案の年齢：高齢・若齢の事案が多い。中間は、元気であるが後遺症で経過が長くなる事案が多く高額になる傾向だそうです。

動物種別では、ウサギ、鳥について、特にこの疾病が多いという案件はないそうですが、クレームが激烈で犬猫にくらべ比率が大きいそうです。ウサギの場合、保定で骨折、ストレスで胃炎になるそうで、要注意ということです。また、ハムスターは安価なので、あきらめて病院まで連れてこないのではと想像しますが、クレーム案件はないということです。

パルボウイルス感染の猫：「強く予防注射を接種するよう説明してくれたら予防接種を受けて、この子は患しなかったのに」と言われた。その患者さんに合った移行抗体の説明が必要な事例でした。

自宅療養で死亡：ミニチュアダックスフント（15歳、肺炎、肥満）で入院を勧めたが自宅療養を希望したため帰らせたところ症状が急変して自宅で死亡。「症状が急変して救急処置が必要であるような説明がなかったので、入院させなかった。」とクレーム。

逆に入院中に死亡：ミニチュアダックスフント（11歳）が 預かり中に死亡。「治療しなかった」とクレーム。2つの案件はやはり説明不足で、どこまで治療するか等、できれば書面で合意を取っておく必要があったのではということでした。

転院にからむ案件：不明の疾病で転院するケースが多いが、次の病院に診療データを正確・誠実に受け渡しておく必要があるということでした。先生同士のコミュニケーション(仁義)にも問題ありとのこと。ここで一言、最善

の治療を論じる先生もいるが、裁判では標準の治療方法で十分勝てるそうですが、治療に対する説明が十分あつてのことです。

最後に、宣伝だとは思いますが、弁護士が入るとややこしくなることお思いですが、大部分の案件は、手紙で解決するという事も付け加えられました。

② 近畿地区連合獣医師会総会（奈良市）

日時：平成31年2月14日（木）午後0時から

場所：奈良ロイヤルホテル（奈良市法華町）

吉岡会長挨拶（奈良県獣医師会長）

10月14日近畿地区学会及び大会が無事に終了したことについて、開催支援等についてのお礼を述べられた。

<議事>

1 平成30年度事業報告案並びに収支決算案、平成31年度事業計画案並びに収支決算案を審議し、原案のとおり承認された。

なお、次期会長候補の和歌山県玉井会長から、次の提案があつた。

新たに、近畿地区連合獣医師大会および学会終了後の12月頃に獣医学術連絡会議（メンバーは、会長一任）を立ち上げ、学会運営の反省点等を検討する。その結果を次年度の引き継ぎ事項として、毎年1月初旬開催の学会幹事・運営委員合同会議に反映させる等、次年度の学会運営に役立てたいとのこと。

また、平成31年度の三学会共通の教育講座として、農林水産省の補助対象講座を開催する予定であり、テーマは「薬剤耐性菌対策」とするとの説明があつた。その他学会ごとに開催予定の教育講座のテーマについて、今後、大阪府立大学と共に検討して行くとのこと。最終的に、平成31年度の事業計画案及び予算案は承認された。

2 平成31年度会費の賦課等について

平成30年度と同じ、総額465,000円との提案。各府県市とも構成人員の減少（△75）もあるが、総額は昨年と同額となる。分離開催及び学会充実に伴う予算額以上の負担増は、担当の和歌山県獣医師会が極力負担すると説明。

3 近畿地区連合獣医師会役員改選で、和歌山県の玉井会長が次期会長となった。

4 日本獣医師会役員改選に伴う候補者の推薦

日獣の理事には和歌山県の玉井会長、監事に滋賀県柴山会長を推薦すること。さらに動物福祉・愛護職域理事候補に大阪府の佐伯会長を推薦することを決定した。（前任の同職域理事の木村群馬県会長からの依頼もあつたようです。）

5 その他

玉井会長から、府大の情報として、学会開催に伴う大学の負担が大きくなっ

ている。若い教員等から不満が出ているとの事。大学とは協調して今後もやって行きたいので、普段から大学と情報交流を密にして行くとのこと。

しかし、大学側にも、合併問題等があり、地域と協調して地域の価値ある大学となる気持ちもあるとのこと。教授陣の世代交代が進み、獣医師会と大学の関係性に考えの違いが出てきているらしい。

③その他

- * 小動物部会を2月23日（土）、あすまいるで開催。あすまいるとの委託事業等について議論した。
- * 平成30年度盲導犬、補助犬普及のための募金贈呈式を3月11日（月）県庁で開催。
総額約30万円を中部盲導犬協会と三重補助犬普及協会に贈呈しました。皆様の寄付金へのご協力に感謝します。
- * 理事会を3月14日（木）、津市リージョンプラザで開催予定。2019年度の事業計画案及び予算案等について、審議する予定です。